

大城ひかるのベトナム



通信

-20-

シンチャオ
(Xin chào)
おきなわ



グループトーク、ペアワークなどを取り入れ話しやすい雰囲気を作る同僚の授業風景（筆者撮影）

「もうベトナム語はベラベラでしょ?」と、これまで何度聞かれたことでしょう。そりゃ、3年以上も外国に住んでいれば、その国の言葉がしゃべれるようになるよ、普通は思うものです。実際、私もそうでした。でも、ちょっと待って。沖

繩に住んでいるアメリカ人は、住むだけでは十分でなく、言葉を学びたいというモチベーションが必要なことが分かるはず

です。声を大にして言いますが、私に意欲がなかったわけではありません。私は大の語学好き。英語の勉強も続けているし、韓国語の検定試験も受けたりました。英語で学ぶスペイン語にも挑戦したことがあります。こちらに来るときはベトナム語の学習本を何冊か持ち込みましたし、いくら難しくても、頑張つて勉強すれば日常会話くらいは、そのうちできるようになるだろうと思っていたのです。そんな私のベトナム語習得熱を下げるきつ

越語学習通し学生の気持ち知る

かけとなった「I a n h 事件」を今日はご紹介し

ます。あれはコロナ真っ只中の2021年春、ベトナム人教員が「日本人のためのベトナム語講座」を開設してくれることになりました。私たちは毎週土曜の午後、校内の一室に集まり勉強をスタートさせました。しかし、やってみるとベトナム語の発音の難しいこと難しいこと。声調は中国語よりも多い6つ、母音は日本の倍以上の11、子音は27もあります。確か、初日の授業は自己紹介の練習だったのですが、90分授業で「私は大城です」「日本語の先生です」「ESU HAIで働いています」が言えるまでにハト

ヘト。初回からベトナム語のハードルの高さを感じました。

「I a n h 事件」が起こったのは4回目の授業です。「寒い」という意味のこの形容詞を発音するには、aの位置で思

いつきり音を下げたかと思つと、直後にn hで舌をちよつと前に出す早業をマスターしなければなりません。入門クラスの言葉ですから難しくはないはずなのですが、発音するたびに「今の音はaじゃなくてà」「hが聞こえない」「nがmになった」と指摘されるのです。先生の口元を見て何度もまねてやってみても及第点が取れないので、どうとう白旗を挙げてしまいました。

ベトナム語はあきらめてしまいました。この講座から得た教訓もあります。できない学生の気持ちがかつたことです。外国語を学ぶ不安、教室で先生に当たられたときの心細さ、答えを間違えたときの恥ずかしさ。こんな気持ちを抱えて学生は机に座っているんだと実感できました。そして、文法にしろ、発音にしろ、どこが違っているか、なぜ違っているかを伝えられる教師になりたいと思つたのです。まだまだ半人前ですが、今日も学生の「分かった」のために、私は教室に向

かいます。